



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVET THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

# コロナ×情報×差別

新型コロナウイルスによる肺炎パンデミック？  
感染予防以外に私たちに求められていることは



中国湖北省武漢市で発生した新型肺炎は、発生から3カ月弱が過ぎようとしているが、その猛威は止まる様子はない。日に日に増える感染者、死者、強まる政府の規制。そして誰もが先の見えないこの状況に不安を感じている。今、私たちが取るべき行動とは何かというのを考えていきたい。

## ×情報リテラシー

情報リテラシー…「噂」「報道」などへの接し方  
コロナウイルスについてはまだ医学的にも未解な部分が多く、何が本当かは判断が非常に難しい。各国・各メディアの過剰な表現も目に付く。そんな情報氾濫状態の中で「情報を鵜呑みにしない」という気持ちを持つことが重要である。

## ×差別

今、世界ではアジア人への差別が報告されている。見た目により、感染源であると恐れられ、差別的な言葉・隔離・暴力が起きてしまっている。怖いのは誰もが同じだからといって、十分な根拠なし人権を無視して本当に良いのか、一度立ち止まり考えてみてほしい。



発生源とされている武漢の市場  
中国の食文化は本当に罪？



爆買い中国人の真意は  
「中国にいる家族の為」だった？

歴史的にみても人類は「必要以上に不安を感じると、他人を傷つけることでそれを解消してきた」といえます。国内の例を見てもハンセン病や放射能汚染への差別などを思うと参考になるかもしれません。毎日不安を煽るようなニュースを見て、「悪いのはコウモリを食べた中国人だ！」「どうして春節前に武漢を閉鎖しなかったんだ！」とそこに責任を擦り付けてしまえば、自分の不安も軽減されるような気がしますよね。フランスではいわゆる中華系フランス人が「コロナは降りろ！」といって髪の毛をつかまれ、電車から引きずり降ろされたと留学中の知人から聞きました。これを聞いて皆さんはどう思いましたか？シンガポールという様々な人が暮らすこの国で過ごして、ある意味、差別とは隣り合わせにいる状況です。世界的な非常事態にどういう姿勢が求められているかを自分なりに是非考えてみてください。そしてぜひ語りましょう。意思を持ちましょう。(今溝)